

もっと・ほっと通信



北京の様子



こんにちは。あつという間に夏まっさかりの8月です。今年の北京の夏は、雨の日がいつもより多いように感じます。それも、蒸し暑く一日中ぐずついたお天気で、「北京じゃないみたい」と思うこともしばしば。先週は、校庭の木が折れてしまうくらい激しい雨が数時間降り続けました。幸いにも私は家にいたので、「木が折れるなんて嘘でしょう?」とびっくりしましたが、写真を見てまたまたびっくり。道路も雨水であふれていて、その日学校にいた先生たちは、家に帰るのがとても大変だったそうです。翌日は安全のために切り倒された大きな木の枝が、街のあちこちに積み上げられていました。



お天気はよくなりましたが、自然の怖さを久しぶりに感じたできごとでした。



目の前にない、世界のこと



このおたよりを書くとき、私は読んでくれている人がどこにいるのか、毎日どんなふうに過ごしているのかを考えます。北京にいる人、日本に戻った人、家族が離れ離れで暮らしている人、もともと住んでいた場所に戻った人、全く新しい場所で、新しい生活を始めた人…。少し前までは、みんな同じ「北京日本人学校」の仲間でした。(もちろん、新入生も新しい仲間ですよ!)でも、国の行き来ができなくなってしまってから、みんながそれぞれ違う毎日を送っています。がんばっていること、つらいこと、うれしいことも、みんな違います。ですから、遠い場所にいるお友達や、離れて暮らしているお父さんやお母さんと話した時に、「あれ、なんか違うな?」と、スッキリしなかったことがあるかもしれません。でもね、そう感じているのはあなただけではありません。「目の前にない世界」のことを「今自分がある世界」のように感じることは、大人でもとっても難しいことなのです。つらいことがあると、「みんながそれぞれの場所で、毎日頑張っている」ということをつい忘れてしまいます。

こういう時だからこそ、お互いを思い合いながら、楽しい話をしたり、励まし合えるといいですね。

保護者の皆様へ



「共感」という言葉があります。「他人の体験する感情や心的状態、あるいは人の主張などを自分もまったく同じように感じたり、理解すること」(広辞苑第六版より)を指しますが、これを自然に行える人は、ごく稀であると思います。物事の見方や価値観など、人は自分の経験したことから確立していくものが非常に多いですし、人間は日々の感情に大きく左右される生き物だからです。しかし、今この「共感」が、コロナ禍における人間関係の大きなキーワードではないかとも感じています。家族や友人など、大切な人間関係内でのすれ違いは誰しもが避けたいと思っているはず。今回、「夏休みほっとライン」でたくさんのご家庭とお話をさせて頂いたことを土台に、おたよりを書きました。ご協力を、心より感謝申し上げます。